

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078400100		
法人名	社会福祉法人 多聞福祉会		
事業所名	彌栄苑グループホーム		
所在地	〒834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代1432-1 (電話) (0943) 24-9981 (直通)		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 29 日	評価結果確定日	平成 29 年 12 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同敷地内に吉山内科・整形外科があり、急変時の対応が可能である。
猛暑時、寒冷時を除き、外出等の苑外行事を積極的に行っている。
個別レクリエーション等、個別ケアに力を入れている。
誕生会にご家族を呼んで、一緒にお祝いしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 29 年 10 月 18 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域との交流がとれており、気軽に立ち寄れる施設として地域の方々の利用もあったり、利用者が地域の行事に参加するなど、お互いに行き来が来ている。同じ敷地内に関連の病院があり、医療面でのサポートも安心して受けられている。職員は思いやりを持った気持ちで利用者や同僚に接しており、基本的にフレンドリーな関係を築けている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念にも「地域と共に」と掲げている様に、地域との連携を持つ様に心掛けている。 毎朝の朝礼時には、理念を復唱し、再確認に努めている。	エレベーターの前や、事務所の入口に掲示しており、朝礼時と申し送りが終わった後に、唱和している。職員には理念を通じて、いつも笑顔を忘れずに利用者地域に寄り添うように指導している。地域との関わりを大切にしており、気軽に立ち寄れる施設を目指し、近所の方も、体操や脳トレのボランティアに来てくれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々の慰問や近隣の保育園児の慰問等を通じ相互交流を図っている。 年1回の、法人合同の「ふれあい祭り」等を企画し、地域交流を図っている。	地域の回覧版に事業所のイベントの案内を入れており、事業所のふれあい祭りでは、近所の方も屋台やバザーに参加してくれたり、事業所からオモチャを配ったりした。事業所のイベントに参加してくれる方も多い。また事業所に併設されている多目的ホールでは、地域活動の貯筋体操（ちょきんたいそう）を行っており、地域の方や役所の方も参加してくれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や接し方、利用者の暮らしぶりは、まだまだ地域に知られていない部分があると思う。 今後、地域において、勉強会や相談窓口を開いて理解を深めて行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を行い、利用者の状況や事業所の取り組みを報告している。役場の職員や民生委員、利用者のご家族、地域の代表の方をメンバーに入れ、情報交換を行い、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、利用者、ご家族、地域住民代表、市役所職員、民生委員が参加して開催している。会議では、空室状況や、現状報告を行い、民生委員や役所との情報交換を行っている。また、家族が面会に来た時、事業所全員で外出レクに出かけて誰もいなかったという報告があり、事前に事業所の1ヶ月予定を家族にお知らせするように改善した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係者とは、利用者の保険切り替えや制度に関して相談し、密に連絡を取る様にしている。 運営推進会議のメンバーに入って頂き、事業所のケアの取り組みを報告し情報交換を行っている。	日頃から、行政とは電話や行政窓口で相談や情報交換を行っており、住所地特例の利用者についてのアドバイスをもらったり、近所の老老介護者の方の情報ももらったりして、協力関係に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに関しては、勉強会等を通じて職員間の周知徹底を図り、一丸となって取り組んでいる。しかし、事業所が2階にある為、事故防止の為に入口の施錠を行っている。以前は1階の玄関を開放していたが、昨年の障害者施設での事件以降、こちらも施錠している。対策として、全て指紋認証の扉に切り替え、施錠を行っている。	事業所が2階にある事と、神奈川県障がい者施設の事件をきっかけにして、両面からの安全確保の観点から、指紋認証の施錠を1階玄関と2階事務所入口の2ヶ所につけている。身体拘束をしないケアについての外部研修を受けた職員が内部研修を実施し、全職員に周知し理解を深めている。落ち着きがなくなった利用者があると、他の利用者と一緒に散歩に出かけて気を紛らわせている。	利用者が自由で安全に出入りできるような取り組みを検討してほしい。
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	入居者への虐待は、職員間でも勉強会を行ったりし、絶対にそのような事が起こる事の無い様に努めている。入居者への日頃の言葉遣いや態度にも注意を払っている。施設でも、虐待防止の為に職員の面接を定期的実施している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットで資料を出し、職場の会議の時に話し合い、理解出来る様に努めている。また、家族会で、取り組みを説明している。	年に1回、権利擁護の研修を行い、成年後見制度等について職員が学ぶ機会を設けている。ご家族には入居時や、家族会で説明しており、また必要時に個別で相談を受け付けるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行い、その都度質問には答え、理解・納得して頂いている。当初の説明に限らず、報酬加算の必要性の説明や、料金改定時には理由を説明し、署名・捺印を貰っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を開催し、意見交換等を取り入れ、運営に反映させている。	利用者の思いが実現できるように個別にやりたいことの支援をしている。縫物が好きな方が、前の施設では危ないからと針をさわらせてなかったが、職員が横で安全を確認しながらやってもらおうと、とても上手に雑巾を縫ってくれたり、裾上げをやってくれるようになった。おしゃれな人にはお化粧をしてもらったり、チラシで箱作りが得意な人などその人の特技ややりたいことを活かしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開催し、話し合いの場を設けている。 意見を出し易い職場作りを心掛けている。	管理者は、上から押さえつけるのではなく、意見を出しやすい環境に努め、職員の意見を聞くようにしている。職員は月1回のミーティングの時に、改善の提案を出しており、まずやってみて、問題があったら、もう一度考えるというスタンスで職員の意見も出しやすい状況である。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人の役割を持たせ、責任感・向上心を持てる職場環境を整えている。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用時には、性別・年齢・出身地等について差別することなく、偏見を無くす様配慮している。 また、職員の能力を最大限発揮出来る様、人材育成に努めている。	60歳を越えた方も働いており、男女関係なく活躍している。社会労務士を雇っており、職員全員が平等に働けるようにしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権は、介護するにあたって、十分に尊重している。 人材教育については、外部講師からの研修を受け、全職員へ周知徹底している。	インターネット等を利用し資料を作り人権教育に関する内部研修を行い、職員全員の理解に努めている。利用者に対して差別することなく、利用者が自分らしく生活できるよう支援するよう取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の為に、全ての職員が外部研修を受けられる様に努めている。 毎月の職員会議の中で、定期的に勉強会を実施している。 キャリアパスを活用し、必要な人材の確保を行い、後進の育成にも取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や福祉施設の交流会で他施設の管理者や職員との交流を行い、情報交換をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入所に至るまで、本人の不安や要望を聞き、信頼関係の構築を図っている。 入所前に自宅への面接を行い、施設の説明や雰囲気可能な限り話している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入所に至るまで、家族の不安や要望を聞き、信頼関係の構築を図っている。 入所前に自宅への面接を行い、施設の説明や料金体系、雰囲気を可能な限り話している。		
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情や要望を聞いた上で何を必要としているかを見極め、対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護に当たりながら、一緒に過ごす事で必要な助言を行い、本人の個性や力を発揮できる様に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に家族への状態の報告を行い、本人への面会を促し、職員・家族・入居者、三者間が信頼関係を持ち、共に支え合える様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な慰問への参加や面会により、入居者の友人や知人が気軽に来苑出来る環境作りに努めている。	入居前に近所のサロンに参加していた方を事業所で送迎して、そのサロンに月に2回継続して参加していた。また、他の利用者の以前住んでいた近所の方の仲よし会から、慰問に来てもらったりしている。職員は利用者が昔のことを忘れないように娘さんや家族の話をしたり、以前自宅でやっていたことを同じようにやってもらうようにしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や生い立ち等を把握し、入居者間での話題作りに努め、円滑なコミュニケーションが取れる様に支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者や家族にも時々連絡を取り、今後の相談や支援に努めている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自身の思いや意向を伝えられる入居者には話を傾聴し、それ以外の入居者も、行動や発言等から意向を汲み取り、なるべく希望に添える様に対応している。	利用者の表情や普段と違う様子などに気を付けて、適宜声掛けをしている。いつもお元気が方が口数が少ないので声掛けし、様子観察で不正出血が見つかったこともあった。特に新しい入居者については、家族からできるだけ情報を聞いて利用者のケアに役立てている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が、入居者の生活歴やこれまでの生活環境等を家族への相談や自宅への面会等から把握出来る様に努めている。入所時に居宅のケアマネや居宅サービスの事業所等からの情報提供を受け、今後の支援方針に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の一日の過ごし方、心身状態を把握してケアに努めており、個々の介護日誌（処遇日誌）に、その日の過ごし方、心身状態・言動等を具に記録し、申し送り等で周知徹底している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議で入居者に関する意見交換を行い、それに基づいて介護計画を作成している。 入居者別の担当職員を配置し、月毎のモニタリングを実施し、更にケアマネのモニタリング表を三カ月毎に作成している。	ケアプランは、職員会議でスタッフ一人ひとりからそれぞれ気付いたことを聞き取り、皆で話し合っって作成する。ケアプランの見直しは、原則6カ月毎に行っている。モニタリングは毎月行い、記録している。ケアプラン作成時や更新時には、家族が来訪された際にその内容を説明し、承認印をいただいている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアでの気づきや工夫していかなければいけない事は記録し、情報を共有しながら、介護計画の見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者それぞれのニーズに応じて、多様な支援の方法を考え、柔軟な支援やサービスが提供出来る様に努めている。		
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は、民生委員やボランティア等を活用し、定期的な施設見学も実施して、入居者や施設への理解や協力を得ている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者家族の要望を聞き、極力かかりつけ医の受診が出来る様にしている。 必要であれば苑内での記録をまとめ、病院へ情報提供している。	入居時に、本人及び家族に確認し、主治医を決めている。殆どの方が施設の提携医師に頼まれている。主治医が外部の方については、通院を家族で支援できない方については、家族と話し合っって、施設で支援したりもしている。なお、家族とは常に情報共有を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師の有資格者がおり、同敷地内に吉山内科・整形外科がある為、相談しながら受診や看護を受けられる様支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、看護師の有資格者の職員が医療機関に連絡を取る様にしている。介護添書を送付し情報提供に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、段階的に家族との話し合いの場を持ち、職員一同で検討している。	終末期の方針は明文化しており、入居時や必要時に家族に対し説明し、話し合いをして事前に署名をもらっている。看護師がいないので、胃瘻やバルーンの方の受け入れはないが、看取り希望の方がおられるので、今後、家族、主治医、スタッフとも対応を検討したいと考えている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な行動が取れる様、マニュアルを作成し対応している。急変時の対応の勉強会を定期的に開催している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年3回実施している。夜間発生時の連絡網の実践も行っている。地域を交えての訓練が実施出来ておらず、今後訓練を実施したい。	マニュアルは整備し、避難訓練は、母体法人と共に消防署参加のもとに年3回実施している。訓練は夜間想定もしており、地域住民に呼びかけて消火器の使い方を確認したり、道路愛護デーにホースの使用法を一緒に試すなどのこともしている。施設設備として非常用のスロープを検討している。非常用備品は施設内と同建物内の母体法人にも揃えている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、言葉遣いや態度、プライバシーには十分配慮している。	トイレの声掛けは小声で行うなど気を付けている。時に居室の出入り口が開放されたままの場合などには、職員間で注意をしあっている。家族の来訪時などは基本的に居室で面談していただく等の配慮をしている。接遇の勉強会を年1回以上行い、職員の研修記録をつけている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では、頻回に声掛けを行い、希望や思いを尊重しながら、十分に意思表示が出来る様に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は、業務の都合上、時間を決めているが、その他の日常生活では、1人1人のペースを把握し、望んでいるペースに合わせて支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分としての意識を大切にしている。身だしなみやお洒落に気を遣う入居者もおられ、希望があれば支援している。定期的に外出して散髪に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、朝食、夕食は外注し配食サービスにて対応している。昼食のみ調理しているが、入居者の好みに配慮してメニューの作成を行っている。職員と一緒に後片付け等を行う場合もある。	昼食のみ施設内で職員が作っている。その時には利用者の好みなどを取り入れ、楽しめる献立を考えている。朝夕は配食を取っているが、つぎ分けや配膳・下膳は利用者と一緒に行っている。夕食は、夜勤者が利用者と一緒と同じテーブルで摂っている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りが無い様、職員で栄養バランス、水分量などを考えている。水分は、起床時、朝食時、朝の体操後、昼食時、おやつ時、夕食時、夕食後の余暇時間に提供している。それ以外にも、希望する入居者にはペットボトルを用意し常時携帯して頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、入居者の口腔内の状況を把握し、清潔保持に努めている。見守りを行い、極力自力での動作を促している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄支援を心掛けています。個々の排泄パターンを把握し、一連の動作が自力で行える様、助言をしています。	排泄チェック表を確認しながら2時間おきに誘導している。自分で意思を示せる方はその都度誘導している。パットやオムツは、職員会議で話し合い、できるだけ外す方向で支援している。どうしても必要になった方については、費用も含め家族に説明し了解を取っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどが便秘の方である為、水分摂取を多くし、極力副作用の少ない便秘薬を使用し排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	他の業務との兼ね合いもあり、入浴は、曜日や時間を決めている。毎日、午前中に3名ずつ入浴して頂いている。	毎日沸かしているが原則週2回の入浴とし、ゆっくり入ってもらえるようにしている。曜日の変更等は状況に合わせて適宜行っている。入浴拒否の方にも個別に対応を考えて実施し、ほぼ問題なく入浴できている。	職員の業務の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、利用者がゆっくり入浴できるように支援してほしい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はほとんどの利用者がホールで過ごされている。自主的に午睡される方も数名おられる。特に高齢の入居者には午睡の支援をしている。なるべく体を動かさず等し、夜間の安眠を促している。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がそれぞれの入居者の内服薬の用法・容量をきちんと理解している。飲み忘れや誤薬防止の為に投薬ケースを準備し、職員管理の下、服薬支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の毎日の当番表を作成し、それに基づいて掃除や洗濯物干し、お膳拭き、洗濯物畳み等のお手伝いを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見の外出や、年に2~3回程度の外食会を実施し、戸外に出る支援をしている。時間があれば晴れた日に散歩等も定期的実施している。	お天気がいい日はほぼ毎日散歩している。外食は2カ月に一度は近くのお店に全員で食べに行っている。買物は、家族に伝えて小銭を持たせていただき、散髪のついで等を利用して2人づつ程度で行っている。ドライブも計画的に、月1回程度、全員で花見やイベントなどに出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度で家族より金銭の預かりを行っている入居者もおられる。社会性の維持の為に必要に応じて所持や使用の支援を行う様にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族へ出したり、必要であれば自ら家族へ電話を掛けたり、家族からの電話を入居者へ取次いで話をして頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節毎に飾り付けをし、また入居者と一緒に作成した作品等も可能な限り掲示している。	皆で作ったちぎり絵の大作を飾ったり、地域のイベントに参加した写真があったり、楽しい話が出てきそうな環境である。ソファも自分のクッションを置いたりして居心地よくされている。テレビは概ねいつも点いていて、ニュース等を見られている。天井に明り取りの窓がついており、程よい明るさになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等、時々配置を変え、気の合った方同士、思い思いに過ごせる様に工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、お気に入りの写真や絵を貼ったりしている。 他にもご家族が持参された写真等も同様に飾り付けしている。 馴染みの物や使い慣れた物も持参して良い事は家族にも伝えている。	居室はゆったりした広さがあり、利用者の思いに沿って、テレビやぬいぐるみ、時計、人形などの私物や家族写真が飾られ、居心地のいい部屋となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一律バリアフリーの為、車椅子等での移動はスムーズに出来る。手すりも各所に配置しており、入居者にも可能な限り使用して頂く様声掛けしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない